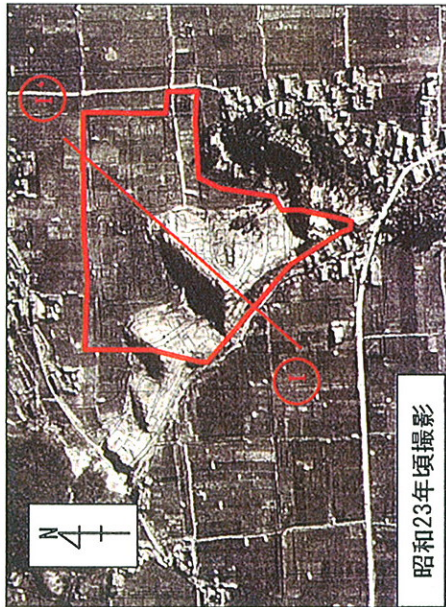


3. 地盤沈下対策部外の宅地造成工事

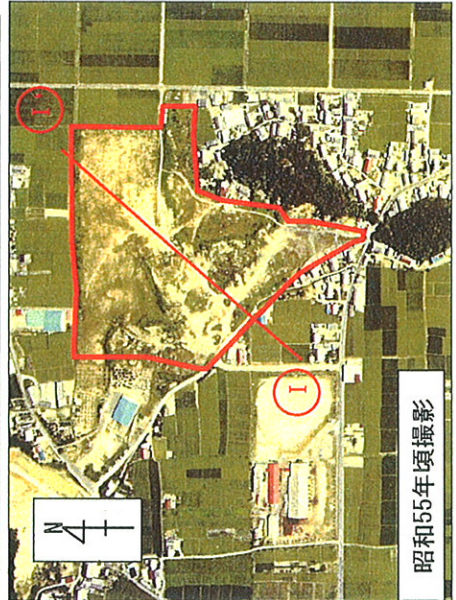
地盤沈下対策部外の宅地造成方法の概要

昭和23年頃の文殊団地の地形

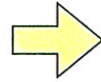
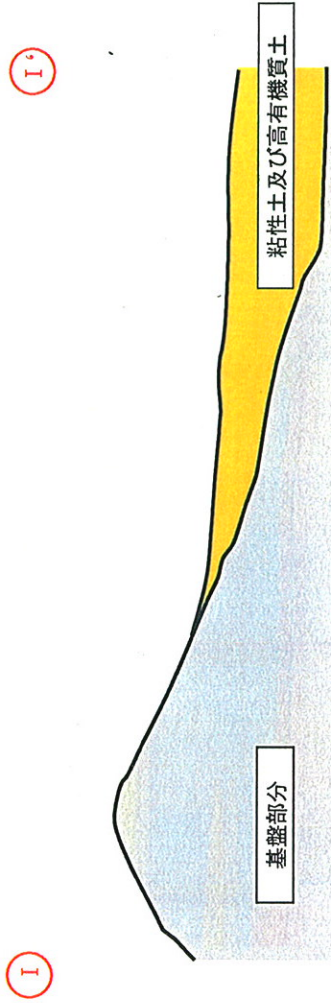


昭和23年頃撮影

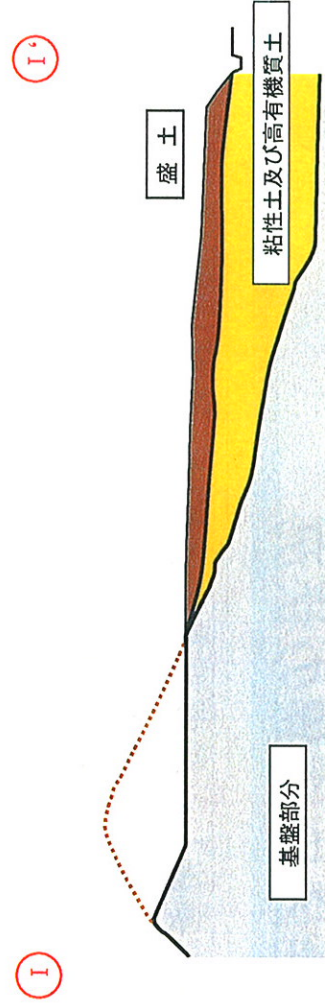
造成工事着手前の文殊団地の地形
(昭和55年頃)



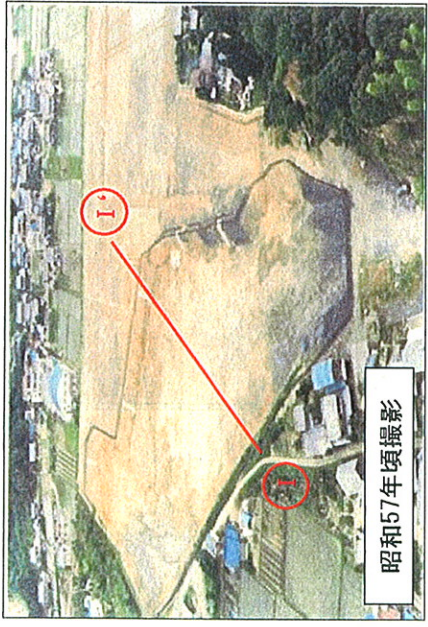
昭和55年頃撮影



・土地所有者が地山の一部分を掘削し、平地を造成。

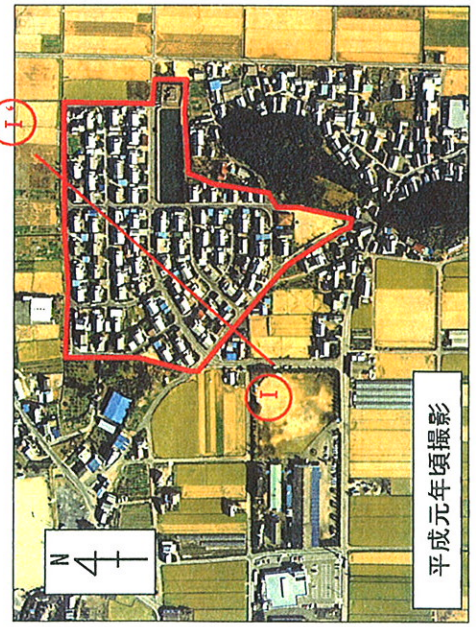


載荷盛土中の文殊団地の地形
(昭和57年頃)



昭和57年頃撮影

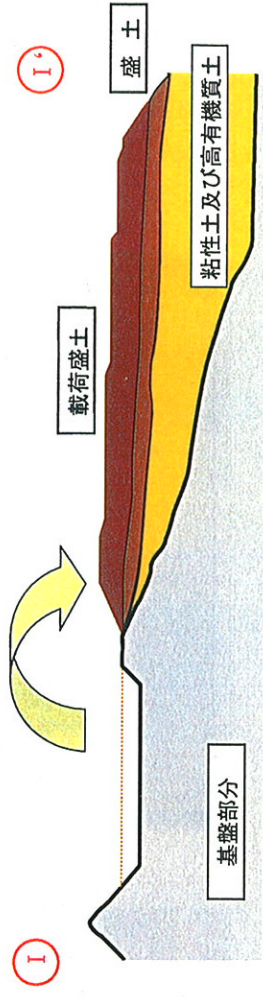
宅地造成後の文殊団地の地形
(平成元年頃)



平成元年頃撮影

・基盤部分を掘下げ、載荷盛土材として使用。

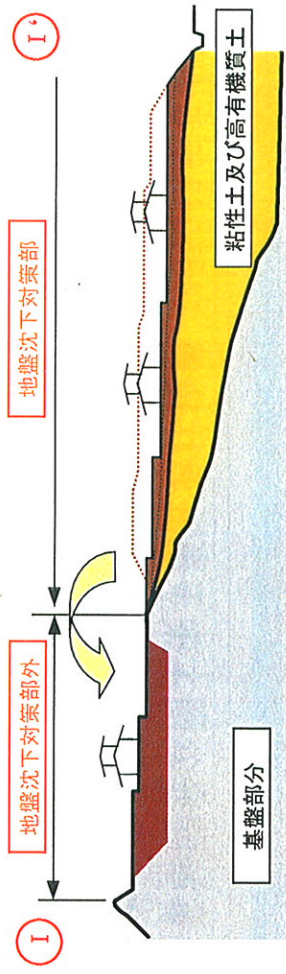
掘削：約99,000m³※



※この基盤部分を含む造成工事における全掘削量を示す。

・載荷盛土材を地盤沈下対策部の掘り下げた部分に埋め戻し、宅地を造成。
(載荷盛土材の一部は造成工事のために残した。)

盛土造成：約76,000m³



地盤沈下対策部外の宅地造成工事の施工管理基準

地盤沈下対策部外の宅地造成工事は、水資源開発公団土木工事共通仕様書（昭和49年5月）及び特記仕様書の施工管理基準で施工管理を行っている。

水資源開発公団施工管理基準

- ・ 締固めた土砂の密度が最大乾燥密度の85%以上。
- ・ 盛土の一層仕上がり厚30cm以下に仕上げる。
- ・ 現場密度の測定は盛土5,000m³に1回実施。

（参考）日本住宅公団施工管理基準

- ・ 締固めた土砂の密度が最大乾燥密度85%以上。
- ・ 盛土の一層仕上がり厚30cm～50cmに仕上げる。
- ・ 現場密度の測定は盛土初期6,000m³に1回、盛土初期以降12,000m³に1回実施。

※：共通仕様書・工事監督要領から抜粋



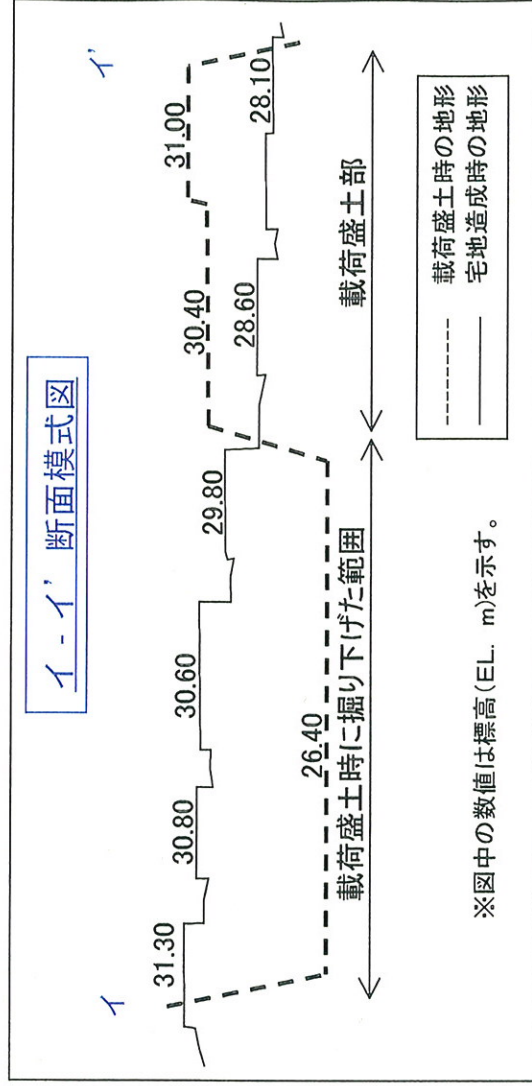
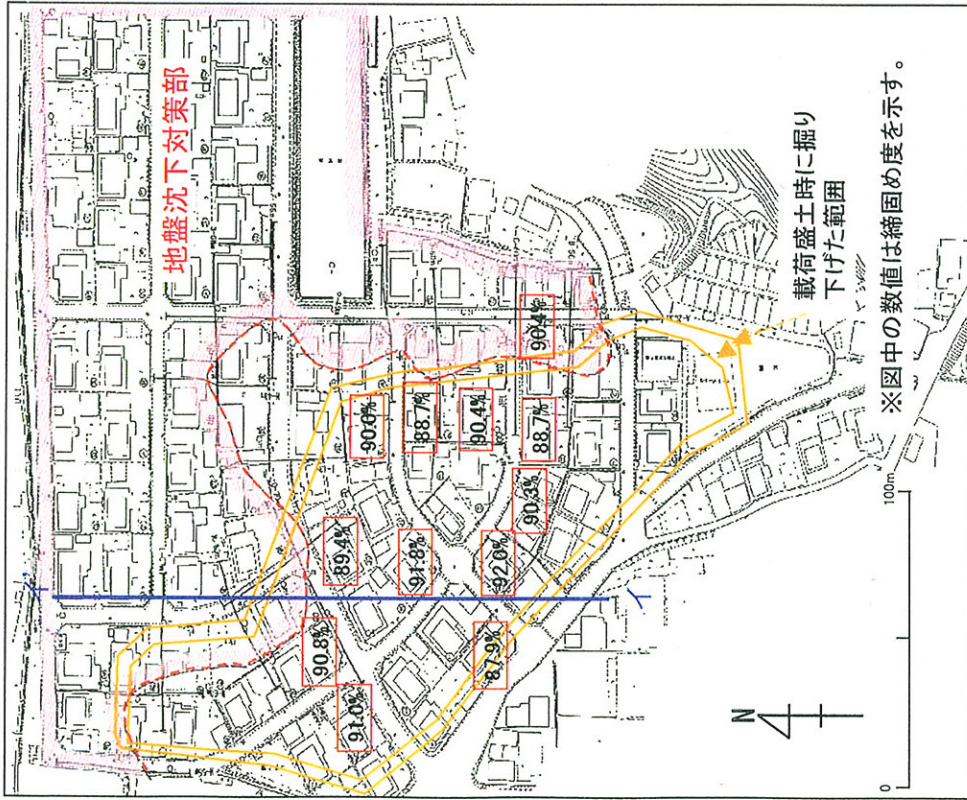
盛土厚の確認



現場密度試験

現場密度試験結果

地盤沈下対策部外の範囲における宅地造成における盛土工事の施工管理結果は、すべて基準を満足していた。



締固め度 = (現場密度試験結果 ÷ 最大乾燥密度) × 100 (%)